

[参考資料]

## 1 千葉県の梨の全国的な位置付け（令和5年産）

千葉県の梨は、産出額・生産量・栽培面積全て全国順位で第1位となっています。

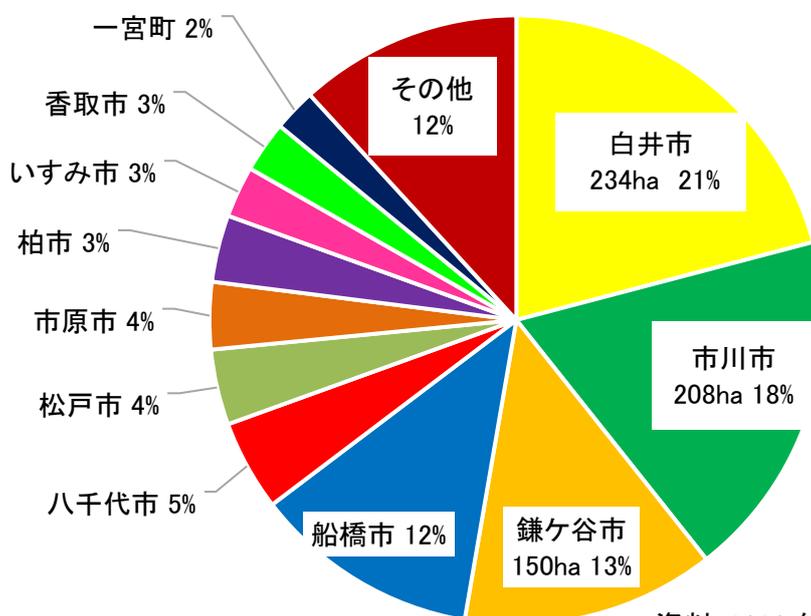
単位：億円、t、ha

区 分		産出額	生産量	栽培面積
日本なし	千葉県	81	22,400	1,300
	全国	716	183,400	10,100
	全国順位	1	1	1
	千葉県シェア	11.3%	12.2%	12.9%

## 2 千葉県における梨の市町村別栽培面積

市町村別では、白井市（234ha、県内比率21%）が最も多く、次いで市川市（208ha、18%）、鎌ヶ谷市（150ha、13%）となっています。特に県北西部で栽培が盛んです。

市町村別梨栽培面積（日本なし露地栽培）



資料：2020年農林業センサス

※本県の日本なし栽培面積と市町村別栽培面積は統計が異なるため一致しません。

### 3 「幸水」（こうすい）の特徴

○「幸水」は、本県の梨全体の5割を占める主力品種です。

品種	幸水	豊水	あきづき	新高	その他※2
結果樹面積	6 5 5 ha	3 4 8 ha	1 0 4 ha	8 0 ha	6 2 ha
(比率) ※1	5 2 %	2 8 %	8 %	6 %	5 %
収穫時期	7 下～8 中	8 中～9 上	9 上～9 下	9 中～10 上	

結果樹面積は農林水産統計数値及び令和5年特産果樹生産動態等調査の品種比率（※1）から推計

※2 その他品種は、王秋、かおり、甘太、秋麗、二十世紀、新興、にっこり

○両親は、「菊水」×「早生幸蔵」

昭和34年に登録された品種です。現在でも、早生の主力品種となっています。

○果実は、柔らかく多汁で、甘みが強いことが特徴です。

○7月下旬から8月中旬に出荷されます。日持ちは、室温で5日程度です。

### 4 「味が自慢の千葉の梨」のキャッチフレーズ

千葉県果樹園芸組合連合会では、昭和30年代から「味が自慢の千葉の梨」をキャッチフレーズにPRを行っており、現在では消費者の皆様によく知られるようになりました。

味が自慢のその訳は、

○千葉県は、土壌条件、気象条件に恵まれた梨の栽培適地で、糖度が高くおいしい果実を生産することができます。

○温暖な千葉県では、関東地方の中では最も早い時期に梨が収穫できます。主力品種の「幸水」は、暑さが厳しい8月上中旬に収穫最盛期を迎えます。8月下旬から出回る「豊水」も代表的な味のよい品種であり、昔から千葉の梨はおいしいと定評があります。

○消費地に近いため、遠隔産地と違って、完熟に近い状態で果実を収穫することができるので、味の良い新鮮な梨をお届けすることができます。

○千葉県の梨の生産者には、おいしい梨を作る高い栽培技術があります。江戸時代から続く千葉県内の産地は、長年蓄積された栽培技術があり、そして現在も、よりおいしい梨をつくるための技術研鑽に励んでいます。

### 5 今年の「幸水」の作柄

今年は、平年並みの開花となり、着果は平年並～良好で肥大も順調に進んでいます。

出荷は、7月下旬頃からはまる予定です。



## 6 審査概要

### ○審査員

審査委員長は千葉県農林総合研究センター長が務め、試験研究など梨栽培の専門家、小売店バイヤー、卸売会社、農協関係者の計11名が審査

### ○審査方法

果実の糖度、色沢、熟度、玉揃い、食味等から総合的に審査

### ○擬賞

特別賞17点（農林水産大臣賞、千葉県知事賞、農林水産省農産局長賞など）、奨励賞は出品総数の10%以内

### ○表彰式

令和7年11月6日（木）の開催を予定